

会館だより



2015年 7月号

No. 313

 公益財団法人 日中友好会館



目次

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・主催展「経営はビジュアル的に考えよう 中国企業ロゴデザイン秀作展」
- ・貸美術館催事「第1回 斎白石の孫「熊之純」、日中絵画交流・記念展示会」

《日中友好後楽会》

- ・7月談話会
- ・2015年中国旅行について

活動記録

- ・文化で繋ぐ東アジア
- ・日中友好促進懇談会
- ・藤沢市視察体験学習に参加して
- ・「JENESYS2.0」中国リハビリ関係者代表団第2陣が来日
- ・「JENESYS2.0」2014年度参加者の感想

ご挨拶

- ・総合交流部に杜海蘭部長が着任
- ・張忠志文化事業部長が着任

コラム

- ・若者よ、「歴史」を勉強しよう
(公財)日中友好会館 顧問 谷野作太郎
- ・理事長のツイッター

会館行事と人の動き

表紙

四川省棒遣い人形劇より「変面」

今秋の「中国文化之日」には、四川省より棒遣い人形劇団が来日予定です。また同時開催として棒遣い人形を展示いたします。詳細は次号でご案内いたします。



● 行事案内 ●

日中友好会館美術館

◆主催展「経営はビジュアル的に考えよう 中国企業ロゴデザイン秀作展」

会期：7月10日(金)～7月26日(日)
 時間：10:00～17:00(初日は14:00より)
 休館日：なし 入場料：無料
 主催：(公財)日中友好会館、PAOS GROUP SHANGHAI
 後援：中華人民共和国駐日大使館、(公社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、(一財)日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、(一財)日中経済協会、(一社)日中協会、(公社)グラフィックデザイナー協会、(株)ワールド・グッドデザイン



上海にある紹興酒ブランド



中国のネットショッピング
 サイト

1990年代初頭より、経済の成長に伴って中国企業は、企業のイメージ戦略(CI:コーポレートアイデンティティ)を目的に、日本を手本に企業ロゴマークのデザインを重視するようになり、ロゴデザインを中心としたグラフィックデザインのブームは中国全土の企業に広まっていきました。

中国のロゴデザインは、非常に複雑で多様な意味を有しています。中国で成功している企業の背景には、経営に良い作用を及ぼすロゴがあり、その作用は日本の企業家や経営家たちの想像をはるかに超えています。

本展は、WGD (World Good Design) が中国にて最も素晴らしい100のロゴデザインを選出したものを日本で初めて展示いたします。デザインの思考、ロゴの選択などの工程を文字・画像を交えてご紹介します。

ぜひお立ち寄りください。

<関連イベント>

開幕式：

日時：7月10日(金) 14:00～15:00

場所：日中友好会館美術館前

PAOS GROUP SHANGHAIをはじめとする訪日代表団が出席予定。

講演会：

日時：7月10日(金) 15:30～17:00

講演者：王超鷹(文化研究者・ロゴデザイナー、日中文化とCIに精通)

講演会場：日中友好会館大ホール

参加自由・事前申込不要

【問合せ・申込み】文化事業部

TEL 03-3815-5085 FAX 03-3811-5263

E-mail:bunka@jcfcc.or.jp

◆貸美術館催事

「第1回 斎白石の孫「熊之純」、 日中絵画交流・記念展示会」

会期：7月29日(水)～8月4日(火)

時間：10:00～17:00

(初日は14:00より、最終日は
15:00まで)

開幕式：7月29日(水) 14:00より

主催：上海龍英芸術投資有限公司

後援：(公財)日中友好会館

熊之純氏は、水墨画・墨彩画の画家です。熊之純氏の祖父は「現代中国画の巨匠」と評され、2011年に中国の美術品オークションでピカソを超える世界最高価格で落札されたことで話題となった「斎白石」です。熊之純氏は実の孫に当たります。

1950年に中国北京で誕生した熊之純氏は、少年時代から絵を描くことに夢中でした。彼の画風は祖父の斎白石や母の斎良芷(元中国斎白石芸術研究会主席)、叔父の斎良末から強く影響を受けています。筆力に力強さがあり、素朴で美しさがある斎派の画風を受け継ぐ熊之純氏の作品は、描かれた生物がまるで動き出しそうな印象すら与えます。

展示会では50点以上の作品を展示し、初日の開幕式後や会期中に熊之純氏による実演を行う予定です。今回日本で初めての開催となる当展では、日中両国の友好と文化交流を目的としています。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



画家・熊之純



「雨後蛙声」

【問合せ】上海龍英芸術投資有限公司

日本窓口担当：土肥

TEL：080-4082-7647

日中友好後楽会

◆7月談話会

日時：7月7日(火) 17:30より

場所：日中友好会館 地下1階 大ホール

参加費：1,500円/人

非会員の方はお問い合わせください

今回の談話会では、後楽寮生で早稲田大学文学研究科に留学中の張秀閣さんから、中国民間伝統保健気功のひとつ「八段錦功法」と簡単なエアロビクス体操を学びます。「八段錦」の腹式呼吸とゆっくりとした八つの動作を行うことは、精神を安定させ、ストレスを解消し、心身の健康を保つことに繋がります。

皆で一緒に楽しみながら、よい汗を流しましょう。談話会後は、館内にて懇親夕食会を予定しております。

(担当：緒方)

◆2015年中国旅行について

今年の中国旅行は下記のように決定いたしました。

期間：2015年11月5日(木)～11月9日(月)

4泊5日

行先：北京・天津

今回の旅行の大きな目的は、歴代の元後楽寮生で組織された「後楽会(中国)」の年に一度の総会パーティに参加し、懐かしい面々と再会し交流することです。また、希望者には元後楽寮生の家へホームステイも企画しています。北京が初めての方には基本的な観光コースを、何度もいらしている方には新しい北京の名所をご覧いただけたらと思います。高速列車で行く天津日帰り観光も予定しております。日程、費用等の詳細は、会員の皆様へ別途郵送いたしましたご案内資料をご覧ください。

【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林、緒方、大竹

電話：03-3811-5305 FAX：03-3811-5263

メールアドレス：kourakukai@jcfc.or.jp

● 活動記録 ●

◆文化で繋ぐ東アジア

2015年5月1日から3日まで、私たち寮生四人は小田原市鴨宮にある小嶋先生の家で、人生初のホームステイを体験しました。二泊三日という短い間でしたが、小嶋先生夫婦からたくさんのご馳走をいただいたり、いろいろな所を案内してもらったりして、本当に楽しかったです。

日本に留学してあっという間に半年経ちましたが、毎日論文や授業にひたすら目を向けている私たちは、学校に通う道や買い物する店だけで日本に対してのイメージを作っていました。だから、家の中で日本人がどのような生活をしているか全然知りません。

このありがたいチャンスを通して、今回、二宮尊徳記念館や小田原城といった地元の観光スポットや年に一回の北条五代祭なども見学できました。良い天気にも恵まれて、富士山もはっきり見え、本当にラッキーでした。また、小嶋先生の家で日本料理を習ったり、紙の花を作ったり、畳の部屋で寝たりして、肌で日本人の生活ぶりを体験することができました。



小嶋夫妻と富士山をバックに

ホームステイの間は、ずっとお二方にお世話になりました。四人とも若者なのに、自分達よ

り年上の方にお世話になったので、本当に恥ずかしくてすまなかったです。観光や見学の時は、親切に詳しく説明してくださいました。きっとお疲れになったことでしょう。それでも最後の最後、JR の車内まで見送ってくださいました。これにはとても恐縮してしまい、感動の気持ちでいっぱいでした。中国では若者がお年寄りの世話をするのが普通です。しかし、今回は逆に子どものように面倒を見てもらったので、かなり複雑な気持ちになりました。これはただ「ありがとう」という一言だけでは伝えられません。

「なぜ 30 年にもわたって世界各国から来た人々にホームステイのチャンスを与えるのですか」と尋ねると、小嶋先生は「まずは趣味です。いろいろな国の人々と付き合うのが好きです。別に偉そうなことではありませんが、私のできることをしています。」とおっしゃいました。

また今回強く感じたのは、日本文化の包容性と文化交流の力です。小嶋先生の家の中には、ロシア、スウェーデンと日本の人形が並んでいます。これはとても国際的です。ベトナムの福祿壽、キリスト教風の窓辺の花、フィリピン流のご飯などもあり、小嶋先生の国際友好交流の成果といえるでしょう。

日本の文化は、昔は中国から伝わったものが一番多かったですが、明治維新以来、西洋からの文化も多くなってきました。不思議なことに、どちらも現代日本文化の中にバランスよく存在しています。外から見れば、日本は諸外国を学んで積極的に文化を輸入している国で、とても国際的な視野を持っている国だと思います。

ホームステイを通じて、文化交流は民間友好を促進する最も良い方法だと強く感じました。政策上の現実的な意味を持っていない文化交流は、穏やかにお互いの理解を深めることができます。それと同時に、政治的な問題を解決するための時間を稼ぐこともできます。小嶋先生がお

っしゃったように、「アジア各国の基本的な考え方は共通しています。日中両国が文化で繋がっていることはいつまでも変わらない事実」なのです。

(後楽寮生 師瑞、華清、繆曉陽、陳睿)

◆日中友好促進懇談会

5月30日、北区日中友好協会主催による日中友好促進懇談会が北とぴあで行われ、後楽寮寮生と留学生事業部職員が参加しました。

最初に日中両国の国歌が流れ、花川與惣太会長の主催者挨拶がありました。北区日中は唯一、区長が会長になっている友好協会です。続いて東京都日中友好協会の宇都宮徳一郎会長、中国大使夫人である友好交流部の汪婉参事官をはじめとするご来賓の挨拶がありました。



東京都日中友好協会の宇都宮徳一郎会長（中央左）、汪婉参事官（中央右）、北区日中友好協会丸山事務局長（後列右1）と後楽寮の参加者

そして、北区議会日中友好議員連盟の戸枝大幸会長の乾杯発声で懇談会が始まりました。懇談会ではCCTV大富による4月に行われた日中友好スポーツ交流会のニュース映像が流れたり、マジックや中国少数民族の歌や踊りなどのパフォーマンスもありました。

パフォーマンスの最中に震度5弱の地震があり、14階である会場はかなり揺れましたが、

丸山隆司事務局長の「会場が揺れても日中友好は揺らぐことはありません！」という力強い言葉に、参加した寮生は非常に感銘を受けていました。

その後、パフォーマンスと懇談は再開し、最後は会員のハーモニカ伴奏で「大海啊故郷」を全員で合唱し、和やかに、そして少しアクセシブに見舞われた懇談会の幕が閉じられました。終了後の帰路も地下鉄を利用したので大きな遅れはなく、寮生も無事後楽寮へたどり着くことができました。

(留学生事業部)

◆藤沢市視察体験学習に参加して

藤沢市観光協会の熱心なご招待と後楽寮の心のこもった組織の下で、私たちは風光明媚な海浜都市——藤沢市を見学した。道中は仲間と多く笑いあっていたりしていたが、この度の交流でどのような収穫が得られるかと思うと、少々心配だった。

私たちはまず先に中国国家の作曲者である聶耳先生の記念碑の前に行きついた。不幸にも早逝された英霊に花束を献上した。そして、同行の日本方代表の説明を聞いて驚いた。聶耳記念碑保存会の歴史上、碑の建立活動の諸費用は、完全に藤沢市民のボランティアで行われているようだ。しかも非政府組織であり、どんな団体の組織にも属していない。藤沢市民の文化と芸術家に対する、国境を越えた尊重の念が伝わってきて、非常に感動した。現在の事務局長の説明にもあったとおり、碑文を見れば、私たち中日人民の間には友好交流の長い歴史と伝統があることを気づかせてくれるのだ。

水族館を見学してから、バスに乗って江の島に着いた。登山エスカレーターはとても早く山頂まで連れて行ってくれた。私たちは先

に蕎麦打ち名人のもとで蕎麦打ち体験をする組と、展望灯台を見る組に分かれた。気温はまだ真夏の炎天下というほどでもなかったが、この日は霧がかかって、灯台から見た海の遠景は朦朧と霞んでいた。しかし脳裏に細長い白砂の海岸や、海岸の向こう側に伸びた街の様子、うっそうとした崖の様子、海底が見えるくらいの透き通った青い海の情景が浮かんできた。魅力的な海浜都市の風景が想像でき、すっかり酔いしれてしまった。私は小さい頃から、内陸の街で育ったので、海は手の届かない所にあるという感覚があった。日本へ来てから、何度か海岸に行く機会があったが、その中でも藤沢の海岸は私のお気に入りの一つとなった。

日本の蕎麦と中国の手作り麺とでは、さほど差がないと思う。何百円で食べられるチェーン店の蕎麦と千円以上する手作り蕎麦の区別は、人工であることと、素材についても細やかな配慮がなされている。八割の蕎麦粉に対し、二割の小麦粉を入れ、水分は気候により変化する。麺をこねる途中で配分される更科粉が麺にこしを与え、ほどよい舌触りとなる。蕎麦には食物に対して妥協を許さない日本人の精神が表れていると言っても過言ではないだろう。



蕎麦打ち体験

蕎麦作りを体験した他に、世界に名だたる日本の伝統的な食べ物——寿司作りの体験もした。私は寿司が大好きだが、初めは生ものを口にすることにはやはり抵抗があった。しかし、いったん口に入ると、すぐにとろける刺身とふっくらと豊かで粘り気のある日本国産米のハーモニーがとてもおいしくて、すぐに寿司の虜になってしまった。また、とうに以前から、寿司作りが簡単ではないことを知っていた。寿司職人として合格するには数年から数十年の修練を必要とする。だから、私はこのプログラムが始まる前から少し心配していた。この一回で本当に寿司作りの技術をマスターできるのだろうか？

でも結果は違っていた。この寿司職人の先生の店はすでに三代続いていて、先生は大学卒業後に職人になり、この仕事を始めて二十年以上になる。寿司作りに熟練しているだけでなく、解説も上手で聞いていてわかりやすい。でも聞くのと実際やってみるとでは全く違った。



寿司の握り方を学ぶ

この小さな寿司の中に日本職人の細やかさ、着実な仕事態度を垣間見ることができた。また、体験をしながら、先生からこの寿司教室を開設したきっかけや、奥さんの以前の留学

経験、日本の伝統美食を外国の友達に紹介するささやかな夢などを伺うことができた。留学経験者なら誰しもこのような夢を持つだろう。外国に行くとかえって故郷の素晴らしさがわかるものである。私たちが必要なのは、夢を持つことではなくて、夢を持ちながら、後の行動に移すことだと思う。

興味深かった体験活動以外に、当地のロボケアセンターへも行った。日本人民は少子化、高齢化に直面しており、それらの問題には積極的な努力が必要である。また新江ノ島水族館では、夢幻多彩な展示陳列と当地の海洋生物研究の豊富な成果を知ることができた。

書ききれないほど、楽しい思い出がたくさんあった。総じて非常に楽しい充実した一日だった。単純な娯楽よりも、このような得難い交流の機会から、私たちの心の中には価値のある思索が残った。これは一つの貴重な財産である。

(後楽寮生 羅華嶽)

◆「JENESYS2.0」中国リハビリ関係者代表团第2陣が来日

2015年5月26日から6月2日までの日程で、中国リハビリ関係者代表团第2陣(団長＝密忠祥 中国リハビリテーション研究センター 副主任)が来日した。本団は、中国リハビリテーション研究センターの医師・理学療法士・作業療法士・看護師などさまざまな専門を持つ青年医療関係者で構成された計35名で、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

代表团は、東京都・鹿児島県・埼玉県にて、3カ所の病院及びリハビリテーション施設をはじめ、厚生労働省や独立行政法人国際協力機構(JICA)を訪問・視察し、日本の最先端医療施設、リハビリ分野に対する理解を深め

た。また、先端技術を体感できる施設や歴史的建造物の参観など、さまざまなプログラムを通じて包括的な対日理解を深めた。

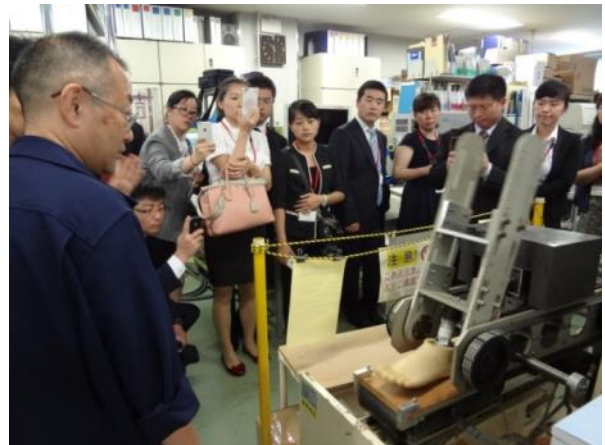
日本の医療保険制度やリハビリ施策を理解

一行は、厚生労働省を訪問し、「障害者保健福祉施策とリハビリテーション」「高齢者施策とリハビリテーション施策」をテーマとしたブリーフを受け、日本の高齢者・障害者の人口や福祉施策導入の経緯、具体的なサービスや、さまざまな段階におけるリハビリの内容について学んだ。団員から「重度の異なる障害者に対するリハビリ目標設定とその評価について」「介護保険への加入義務とその適用範囲について」等、さまざまな質問が上がり、障害者の社会復帰や高齢者の生活支援等における、行政と医療関係者の役割について高い関心を持っていることがうかがえた。また、JICA を訪問し、JICA と中国リハビリテーション研究センターの協力の歴史を振り返ったほか、障害と開発をテーマとした社会保障分野における JICA の取り組みについてのブリーフを受けた。団員からは日本の障害者の雇用状況に関する質問が多く上がり、日本での研修を希望する声も聞かれた。

東京・鹿児島・埼玉で病院を視察、関係者と交流

東京の初台リハビリテーション病院、鹿児島の米盛病院、埼玉の国立障害者リハビリテーションセンターを訪問し、各病院の概要やリハビリの特色について説明を受けたほか、リハビリの現場をはじめとした院内の施設を視察し、日本の最先端医療に関する知識を深めた。団員からは、医療カルテの記入頻度や手術患者の平均入院日数、他に持病を持つ患者への対応、さまざまな種類のリハビリ内容など、専門家の観点から具体的な質問が多く出された。

また、病院関係者との懇談を通じて、同分野で活躍する日本の青年との交流を深めた。団員からは、「日本では医師と患者の関係が良好で、患者だけでなく職員の満足度も高い。医師も職員もチームとしての誇りを強く持ち、自分の仕事を熱愛していると感じた」との声が聞かれた。



福祉機器開発部で義足の使用可能回数実験を視察
(国立障害者リハビリテーションセンター)

そのほか、東京では TEPIA 先端技術館で「医療・福祉」「生活」「公共」「産業用ロボット」などさまざまな分野の先端技術を体感したほか、浅草・皇居二重橋を参観した。鹿児島では仙巖園・尚古集成館・焼酎の蔵元を参観し、和風旅館に宿泊するなど、日本の歴史や伝統文化に触れ地方の魅力十分に満喫した。また、古くから伝わる自然健康療法である砂むし温泉も体験した。

8日間の多彩な活動を通じて、団員は医療分野だけでなく日本に対する幅広い理解や関心を高め、日本や日本人を身近に感じる事ができた。

本団の受け入れにご協力くださったご関係の皆様、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

◆「JENESYS2.0」2014年度参加者の感想

アジア大洋州諸国及び地域との青少年交流事業「JENESYS2.0」の一環として、2014年度に中国から来日した団員や交流に参加した日本側参加者の感想をご紹介します。

《中国高校生訪日団第1陣》

〔中国高校生の感想〕

◇一番印象深かったのは学校訪問とホームビジットだ。これは日本人と触れ合うまたとないチャンスだった。学校では、日本の学生達が温かくもてなしてくれた。日本の友人もたくさんできた。みんな純粋で、友好的で、素朴で、私達は日常生活のことについて語り合い、互いの生活習慣や勉強の状況の違いに驚き、深い友情で結ばれた。ある女子学生が、私達の友情をずっと忘れないよ、と言ってくれて、とても嬉しかった。この友情が末永く続くよう願っている。ホームビジットでは、おじいさん、おばあさん、おばさんが温かくもてなしてくれ、寿司や押し花のカレンダーの作り方を教えてくれ、バスの出発を見送りに来てくれた。バスの窓から手を振りながら、みんな泣いていた。

〔日本高校生の感想〕

◇「交流を通して知ったこと」

私は今回の交流で中国人の高校生と初めて会話をしました。私の親戚に中国人のリーさんという女性がいます。彼女はとても優しく明るい性格で、日本語を上手に話します。テレビをはじめとするメディアを通して知る中国は、反日感情を持った、怖くて、日本と仲が悪い国という印象を受けがちでした。しかし、今回の交流を通して、中国にはリーさんだけでなく、こんなにやさしい人がたくさんいるんだと感動しました。



日野町でホームビジット(滋賀県)

私達と同じ高校生が違う国で似た内容の勉強をしていることや、お菓子をくれるところや、英語で会話ができること、一つ一つが嬉しく思いました。きっと中国から来てくれた高校生たちも、日本に対する印象に変化があったのではないかと期待しています。私はこの交流をきっかけに、中国への興味が大きくなりました。また中国は広く、知らないことがたくさんあると気付きました。

日本と中国はお互いをもっと知り、交流を深め、仲良くしていくべきだと強く思います。また日本に住んでいる中国人や、中国に住んでいる日本人のためにも、もっとお互いの国でお互いの国の良い所を学べる機会がたくさんあればいいと思います。そうすれば、多くの方が気持ちよく生活できるでしょう。この交流に参加させていただき、視野が広がりました。ありがとうございました。

《中国大学生訪日団第10陣/日本語履修者》

◇今回の訪日活動で、日本に対する印象が更に深まった。中日の政府の関係は緊迫しているが、国民の交流には少しも影を落としていない。日本人は本当に親切で、きめ細かく私たちの面倒を見てくれた。日程の内容も素晴らしかった。

上智大学や大阪大学の学生との交流では、日本の学生の日常生活や勉強の仕方について知ることができた。中国式の丸暗記法とは違って、日本式の勉強法はもっと柔軟で、



上智大学 訪問・交流

特に研究を重視していた。他にも、和歌山県での辻林浩先生の「世界文化遺産」に関する講義に、深く感銘を受けた。日本人は自然保護をととても重視していて、道を修復するにしても、堤防を築くにしても、すべて自然を基本としていた。この点は中国政府も見習う価値があると思う。今回、白浜町で老夫婦の家にホームステイをした。私たちは一緒にジャガイモを掘り、茄子を取り、晩御飯を作り、おしゃべりをした。本当の家族になったように感じた。お爺さんは私たちにUNOというカードゲームも教えてくれた。とても面白かったので、帰国したら友達にも教えてあげたいと思う。

日本人は私たちが思っていたような話嫌いな人々ではない。実際の日本人は本当に親切で、どこへ行っても家に帰ったような温かい気持ちにさせてくれた。チャンスがあれば是非また日本に来て、日本の風土や人の情に触れたい。そして、もっと多くの中国人に日本に旅行や留学、仕事に来てほしい。

《中国大学生訪日団 第11陣/教育》

◇今回の訪日活動は私の大学生活の中でも最も色濃い思い出を残した。私は歴史学を専攻する学生だが、日本の基本的な情報は書籍、テレビなどのメディアから習得してきた。そこで、今回、日本がどんな様子なのかこの目で見てみたいと非常に興味を抱いていた。そして7泊8日の交流訪問でたくさんの思い出を刻むことになった。

まず、石川県立錦丘中学・高校の教学理念と教学スタイルが印象深い。中国では真の意味での西洋的教学モデルは実施されていないが、ここではそれが既に根付いているようだった。週一回の道徳授業、定期的に行う防災訓練、リラックスした雰囲気の中で行われる授業、柔道や剣道の道場、放課後のクラブ活動など、中国の小学校、中学校では実施は不可能だと思われる内容が豊富にあった。一方、中国では勉強一本やりで、学生は受験勉強のために学習している状況で、各人の長所や天性を伸ばす教育は二の次になりがちだ。だが、総合的教養の向上やクラブ活動重視の日本式スタイルには、系統立った論理的学習に十分な時間を取れないデメリットもあると思い、両国それぞれの長所と短所があると感じた。

また、防災館を見学し、中国はかなり遅れていると思った。幼少時代から防災意識を教え込むことは非常に大切だ。防災館の係員からディズニーランドの職員が毎年250回も防災館で訓練に参加していると伺い、日本国民の防災意識の高さを思い知った。こうした知識や備えがあれば、実際に天災に見舞われた際の被害程度を極力抑えることができるだろう。

私は帰国後、日本人は友好的であること、物事にきめ細かな配慮で当たること、親切で礼儀正しい国民であること、おもてなしの心で迎えて下さったことを周りの人々に伝えたい。今回の訪日活動では多くの収穫を得ることができた。

《中国大学生訪日団第13陣/ボランティア》

◇社会学専攻の学生として、ボランティアに関する交流は大いに感じる場所があった。計3回の講義の中で、日本のボランティア活動が系統的に行われていることがわかった。とりわけシニアボランティアの活動において、それを感じた。鎌倉を見学した際、シニアボランティアはとても元気で、退職した後にガイドの資格をとり、現地でボランティアガイドをしている。学生達のボランティア活動は言うまでもない。

ボランティア従事者をどのようにより専門的に育成する



金沢大学訪問・交流



観光シニアボランティア視察
(神奈川県)

かなど、中日両国においてボランティアの抱えている課題は大体同じだと思う。すなわち、いかに知識や専門性の限界を打破していくかといった、ボランティア活動の方法や心構えだ。長期的な観点から見れば、両国の友好発展はボランティア活動の交流から強化できると言っていだろう。

《中国青年代表团/公務員・経済・農村青年幹部》

◇印象に残ったことの一つ目は、東京都知事を表敬訪問した際、北京・東京の両都市の交流と協力関係を強めるべきとの舛添知事の話である。今、中日関係は難しい時期にあるものの、経済分野や民間の友好交流については更に推し進めていくべきであり、相互理解を通じ、正しい歴史認識と事実の尊重を前提に、政治の“氷を粉砕”しなければならないとのことだった。

二つ目は日本人の社会秩序や規範意識の尊重とその実行についてである。日本訪問を待たず、私は早くからそのことは耳にしていたが、今回の訪問で日本の街角で見聞きしたこと、広島のごみ処理場（広島市中工場）の見学などを通じ、社会管理や環境保護面でのルール策定、施設建設、そして国民がそうしたルールをしっかり守っていることを目の当たりにした。この面では中国が見習い、参考とすべき点が多々あると感じている。



舛添要一 東京都知事表敬訪問

《中国動物検疫関係者代表团》

◇忘れがたく、非常に印象深い訪問だった。

代表团が訪れたすべての場所で、日本政府、業界関係機関や企業など、各方面からの温かなもてなしを受けた。日本側事務局による送迎から、宿泊先のホテル、レストランの従業員にいたるまで日本人の心からの友好の気持ちを感じ、友情を結ぶことができた。私たちの一人一人が中日友好の使者となり、帰国後は、家族や友人にこうした友好的なもてなしについて伝えたいと思う。

農林水産省や農林水産省動物検疫所本所で働く同業者たちの緻密で真面目な仕事ぶりから学ぶことがあった。とりわけ、輸入動物の検査を行う職員に対する厳しい管理や、病死した家畜を焼却処理するための移動設備などが印象に残っている。動物たちの幸福を守り、毎年定期的に死んだ動物を供養していることも印象的だった。農畜産業振興機構による業界全体の生産・輸出入の管理、日本ハムファクトリーの高度にオートメーション化された厳しい安全・衛生管理も他では見たことのないレベルの優れたものだった。中国に帰ったら、日本政府や業界関連機関・企業の進んだ経験や互いに協力しあう優れた伝統を同僚たちに学ばせ、研究させることで、中国でも推し進めていきたいと思う。私たちのこの経験は、あらゆる分野で中日両国の友好的パートナーシップを促し、中日友好の素晴らしい未来を切り拓く一助となるだろう。



農林水産省動物検疫所本所訪問・視察

● ご挨拶 ●

◆ 総合交流部に杜海蘭部長が着任



中日友好協会の派遣で来日した杜海蘭です。この度、(公財)日中友好会館総合交流部部長に任命され、とても光栄に存じます。

1987年8月、北京大学東方語言文化学部日本語文化科の入学通知書を貰った時の嬉しい気持ちは今もはっきり覚えています。その時の私にとって、日本はまったく未知の世界でした。日本という国、または日本語が好きですから、とは言えず、なぜ日本語を選んだかと言えば、運命だからでしょう。

1992年7月に、中国人民対外友好協会に配属され、所属の中国対外友好合作服務中心に入り、日本への技能実習生派遣事業に従事し始めました。2014年年末までの22年間の職業生活の間に、一步もこの事業を離れませんでした。22年間に、我々の努力の下で、何千人の中国若者たちが日本の企業で技能実習をし、専門技術の習得だけでなく、周りの日本人との友情も収穫できました。私自身もこの草の根交流を通じて、日本に対する理解を深め、多くの日本人と友達になりました。

2015年1月、私の人生に新しいページが開かれました。この度、日中友好会館に勤務でき、日本語専攻出身の私には貴重なチャンスだと思います。青少年交流事業は真新しい経験なので、つくづく責任を感じています。でも、周りに熱心な皆様がいるので、いくら困難があっても、乗り越えられると確信しております。

どうか皆様のご指導とご協力を賜りますようお願いいたします。

◆ 張忠志文化事業部長が着任



このたび、中国文化部の派遣により、日中友好会館に勤務できることを大変光栄に存じます。

私は安徽省出身で大学を卒業してもう30年になります。これまで、国家文物局の外事弁公室でアジア諸国との文化交流担当、東京の中国大使館文化部一等書記官、東京中国文化センター副センター長などを務めて参りました。在任中は日本の各界の皆様には大変お世話になりました。特に、中国国家文物局、中国大使館に勤務していた期間には、日中友好会館に多大なご協力を賜り、日本各地で「秦の始皇帝と兵馬俑展」、「北京故宮博物院展」、「よみがえる四川文明—三星堆と金沙遺跡の秘宝展」などを開催することができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

日中両国の文化交流の歴史の源は悠久であり、文化交流とは日中両国の物質社会、精神文明及び人々の思想や行為などを総合しているものだと思います。

文化似水 汇聚涵养 灵动激扬

千变万化 善利万物 而不争

文化似山 巍峨峥嵘 厚重庄严

千姿百态 能生万象 而不矜

(訳) 文化は水のごとし 修養を集め 精神を奮起させ 千変万化で万物に利を与える争いはおこらない

文化は山のごとし 才気と品格にあふれ 重厚で荘厳である 千姿万態で万象が生きる おごり高ぶらない

日中文化交流のため、微力ながら尽力してまいりますのでご指導とご支援を賜りますようお願いいたします。

● コ ラ ム ●



若者よ、「歴史」を勉強しよう

(公財)日中友好会館 顧問 谷野 作太郎

先生「君たち、日本とアメリカは昔、戦争したことがあるんだよ。」

生徒A「へえー、知らなかった。」

生徒B「で、センセイ、どっちが勝ったんですか？」

これは外ならぬトウキョウダイガクでの話である。もうひとつ。

先生「君たち、“真珠湾”って知ってる？」

生徒「それって、もしかすると真珠がとれる三重県の湾のことかしら？」

私が、ある大学の新生たち、或いは某企業の新入社員に対する講話でこの話をしたところ、誰一人笑う者が居なかった（理解できなかったのだろう。或いは真珠湾って三重県でなく、どこか別の県の湾のことだろうか、と考えていたのかもしれない）。

この手の話は枚挙にいとまがない。日本ではつとに、歴史学者の間で日本の多くの若者たちの日本の近現代史、その中にあるアジア諸国とのかわりについて知識の欠落を慨嘆する声が少ない。

日本の高等学校では日本史は選択科目とされ、選択しても、学習は概ね江戸時代まで、という話もよく聞くとところである。とすれば、若い彼ら、彼女らの多くは、日本がかつて中国と無謀な戦争をして負けたこと、しかし、その中国は日本に対して「戦争賠償」を放棄したことも知らないだろう。

「チュウゴクトセンソウ？」「センソウ・バイショウ？それって何のこと？」と。

他方、お隣の中国、韓国の若者たちは学校で、この辺のところ（近現代史）をしっかりとたたきこまれる。これに対し、「真珠湾って、三重県の湾のこと？」、「日本は中国と戦争した？」、「竹島」って誰のこと？」では話にならない。彼の地の人たちは、そんな日本の状況にイライラするばかりである。

何も中国、韓国で教えられるあの国々の歴史観に合わせるということでは毛頭ない。しかし、彼の地の若者たちとしっかり対話を取り運ぶためにも、日本の近現代史、とくにその中にあるアジアとの関わり（これも戦争や植民地支配といった“負”の面だけではない）について、少なくとも基本的知識だけは身につけておきたいものである。



理事長のツイッター

(公財)日中友好会館 理事長 武田 勝年

私は、中国に4回、計16年駐在しました。その間、困ったことや戸惑ったこと、そして失敗も度々ありましたが、今振り返ると駐在時代の貴重な経験や思い出、そして中国の友人達との交友が自分の人生を豊かにしてくれたと感謝しています。中国人とのお付き合いは駐在生活を楽しくしてくれます。

中国は、人口で日本の10倍以上、国土は約26倍、GDPは2倍強、中国共産党が統治する大国です。一人一人の能力が高いですから、腰を据えて対応しないと簡単にKOされて仕舞いますが、真に魅力のある人物が大変多いのです。「アー、この人のスケールの大きさにはとても敵わない。」と驚嘆・敬服し、又会いたいなど思ったことが何回もあります。

中国で暫く生活していて分かるのは、何とも言えない微妙なそして厳しい人間関係です。中国人に何か頼みごとや相談をすると、よくある答えが「友達が居るから大丈夫」。出身地・学校・住まい・職場等で生まれた朋友（友達）関係が網の目の如く張り巡らされていて、そのネットワークの中に居ないと物事が上手く進まない。仕事の上でも生活面でも朋友関係は欠かせません。

「先交朋友、后做事」（友達になることが先、仕事はその後）

汚職・腐敗は昨今中国の大問題ですが、その根底に「法律よりも朋友関係優先」の考え方があるのではないかとすら思っています。

私が考える交友の基本姿勢は、「礼を以って遇し、志を以って義を結び、趣を以って交わる」です。中国人は、年齢や地位に拘らず「面子」を大事にしますから、お付き合いの第一歩は「礼」。貧富貴賤に関係なく敬意と誠意を持って接することが基本です。次に、立場は違っても志（目的）を共有して苦楽を共にする機会があれば信頼関係を築くことが出来ます。更に、ゴルフ、登山、絵画等何か同じ趣味を楽しむことが出来れば最高。お付き合いは一生続きます。

蛇足を言えば、全ての中国人が紳士淑女とは限りませんから、甘言に乗って死胡同（行止りの路地）に迷い込まない様留意することも肝要です。



会館行事と人の動き 5/1～31

● 会館行事

- 5/1～5/3 ▶ 小田原ホームステイ (後楽寮生)
- 5/14 ▶ 後楽会中国画教室
- 5/18～5/19 ▶ 北京出張 (武田理事長)
- 5/21 ▶ 後楽会気功・中国画教室
後楽寮新入寮生説明会
- 5/26～5/29 ▶ 主催展「中国漫画展」代表団 来日
- 5/26～6/2 ▶ 「JENESYS2.0」中国リハビリ関係者代表団第2陣 来日
(5/27 同団歓迎会、6/1 歓送報告会)
- 5/29 ▶ 主催展「中国漫画展」開幕式・作画実演・祝賀パーティ

● 来館・訪問・面会

- 5/12 ▶ 東京華僑総会 廖雅彦会長、張瓏庭理事 懇談 (武田理事長、荒井常務理事)
- 5/14 ▶ 韓志強公使送別会 (江田会長、荒井常務理事)
- 5/19 ▶ NHK エデュケーショナル 貫井語学部主任プロデューサー 来館 (荒井常務理事、広報チーム)
- 5/20 ▶ 文京区アカデミー推進部アカデミー推進課 増田一昌国際交流担当主査 来館 (留学生事業部)
- 5/25 ▶ 日本ファシリティ・ソリューション 岡英樹社長 来館 (武田理事長)
- 5/26 ▶ 中国漫画家 徐鵬飛氏 来館 (武田理事長、荒井常務理事)
- 5/27 ▶ 外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課 川田地域調整官、石井事務官 来館
(武田理事長、荒井常務理事、小島事務局長)
- 5/29 ▶ 韓志強、劉少賓両公使歓送迎会 (江田会長、武田理事長)

● 行事参加、その他の活動

- 5/4 ▶ 松山バレエ団「眠れる森の美女」鑑賞 (後楽寮生)
- 5/16 ▶ 日中学院公開講座 講演 (武田理事長)
- 5/17 ▶ 池袋防災館防災体験見学 (後楽寮生)
- 5/23 ▶ 「G.F. handel メサイヤ アジアの恵まれない子どもたちのためのチャリティー」鑑賞 (後楽寮生)
- 5/28 ▶ 中国国際青年リーダー日本社区設立大会講演 (武田理事長)
藤沢市視察体験学習 (留学生事業部、後楽寮生)
- 5/29 ▶ 北区日中友好協会 日中友好促進懇談会 (留学生事業部、後楽寮生)

